

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ことばの教室ことのは4号館Jr.		
○保護者評価実施期間	令和8年2月5日		令和8年3月13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30	(回答者数) 30
○従業者評価実施期間	令和8年2月5日		令和8年3月13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月16日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	言語聴覚士をはじめ作業療法士・理学療法士・保育士・児童指導員と他職種が在籍し総合的な支援を行っている。	「言葉発達支援」の療育を特徴とする事業所運営の中で、感覚統合の観点からセラピストが「土台となる身体づくり」へのアプローチをし、保育士や児童指導員が児童同士のやり取りの練習など丁寧に個別で関わるなかで「社会性を育む」といった総合的な支援が行える様に情報共有を行い日々対応している。	職員間の情報共有や現場での連携がしやすいよう児童の目標設定や各職種の目的化の明確化を図る。 日頃から情報共有の場(昼礼・終礼)で発言していく。 多角的な支援を行う事ができる様に担当する児童を固定せず全ての職員にて支援を行う。
2	職員を多く配置する事で児童に寄り添った支援が行える。	言語聴覚士、理学療法士、作業療法士、保育士、児童指導員等経験豊富な職員を配置し、相互に連携し児童が成長できる環境を心がけている。	充実した職員配置を活かして季節ごとの行事やイベント参加を積極的に行っていく。 児童の意向に沿った好きな遊びを提供しつつ、プログラムが固定化しないよう遊びの幅や社会性を広げるために多角的な視点で活動プログラムを設定し提供する事で支援の拡充を図っていきたい。
3	保護者の相談を受け、助言をしたり申し送り時に丁寧な活動報告を行っている。	対面又はメッセージアプリを活用し申し送りを行っているが、活動の状況が伝わりやすい表現や児童の成長した面を伝えるよう意識している。保護者からの質問や相談があった際は職員間で共有や話し合いをして助言を行うようにしている。	引き続き丁寧な申し送り対応を職員一同心がけていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の保育園や学童クラブとの交流が少ない。	言葉でのコミュニケーションが苦手な児童が多い為、交流会等の行事へ参加が難しい。	近隣の公園や児童館でのイベント参加を行う際には、地域児童と交流ができる様支援を心がける。
2	施設の玄関スペースが狭く保護者から「他の保護者が来た際に待たせてしまうので話づらい」「申し送りの間子どもが落ち着きなく動くので気になってゆっくり話が聞けない」と声があった。	玄関スペースに限りがあり1組ずつしか受け入れが出来ず、順番待ちの状態になっている。 療育スペースと玄関スペースがゲートで区切られているので一度児童が玄関スペースへ行くと保護者と申し送りスタッフが児童を見守る流れが出来ている。	玄関スペース横のキッチンスペースを活用して申し送りをするなど環境調整行う。 申し送り最中は他スタッフが児童見守りや申し送りが終わるまで療育スペースで過ごすなど出来るよう、職員間で話し合いや試行錯誤しながら改善に努めていく。
3	事業所職員から「部屋の割り方や環境整備が必要なおところがある」「児童がクールダウンできる個室が欲しい」と声があった。	施設基準は満たしているが建物の構造上、部屋がひらけた作りになっており児童同士の距離が近いことでお互いの特性の違いによる対応が難しくなることがある。	現在の対策として1階、2階のフロアで分けて療育したり個別に散歩で気分転換促し対応をしている。 今後パーテーションを導入し机上訓練やクールダウンできる空間の確保をしていければと思う。